

職員による自己評価

A環境面

- ・ 大人と子どもが全員揃うと狭さを感じる時もある。

B児童への支援内容

- ・ 朝礼時にその日の支援内容等について話し、帰りの送迎後もスタッフ間でその日気になったこと等の情報の共有を行っている。

C関係機関との連携

- ・ 保育所や作業所等との情報共有は出来ていないが、通っている学校や他の放デイとは連携がとれている。

D保護者への説明責任・信頼関係

- ・ 日々の活動をブログにて配信することで、ライブでの様子等を伝えることが出来ている。

E非常対応

- ・ 月に一度ライブ内で研修をすることで、非常時や虐待防止、といった子どもの支援に関わる際に必要となってくる知識を学んでいる。

保護者による評価

A環境面

- ・ 実際に活動場面は見えていないのでわからないという声もあったが、半数以上が活動スペースや人員配置に納得していた。

B児童への支援内容

- ・ 子どもと保護者のニーズに基づいて支援計画書が作成されている。
- ・ 今はコロナ禍なので、放課後児童クラブや児童館との交流は”なし”の方が良いと思う。

C事業所からの情報発信

- ・ 何時も連携を密に保ち、忌憚のない意見交換をしている。
- ・ 保護者に対して、面談や育児に関する助言等の支援が行われている。
- ・ 苦情については、このような機会がないのでわからない。

D非常対応

- ・ マニュアルは渡されていないと思う。
- ・ 非常災害の発生に備え、定期的に必要な訓練が行われている。

事業所内での分析

【共通点】

- ・ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている。
- ・ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題が客観的分析されたうえで、放課後等デイサービス計画が作成されている。
- ・ 活動プログラムが固定化されないよう工夫している。
- ・ 定期的にホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信している。

【相違点】

- ・ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- ・ 職員の質の向上を行うために、研修の機会を確保している。
- ・ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析して、放課後等デイサービス計画を作成している。
- ・ 支援開始前には職員間で打ち合わせを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している。
- ・ 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている。

事業所の改善点

- ・ 業務改善につながるような第三者による外部評価を行っていない。
- ・ 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子供と活動する機会がない。
- ・ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っていない。

事業所の改善への取り組み

- ・ 第三者による外部評価を行い、今後のより良い業務につなげていけるようにする。
- ・ 放課後児童クラブや児童館との交流は、現状新型コロナウイルス等の感染拡大防止の観点から難しい。同様に、地域住民を招待しての行事も現状は開催が難しい。
- ・ 今は外部との交流は控え、今後外出自粛等の流れが落ち着いてきたらそのような交流の機会も作っていけるようにする。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

- ・ 昨年度のアンケート結果等と比較して、昨年同様良い評価を貰えているところもあったが、逆に昨年と比べ評価が落ちている部分もあった。今年度はその評価が落ちてしまった部分の原因を考え、来年度の評価の向上につなげていけるよう業務に取り組んでいきたい。

事業所名 ライズ児童デイサービス本牧

担当者 川上 隼人

職員による自己評価

A環境面

・スペースに対しての利用定員は適切である。

B児童への支援内容

・活動支援プログラムの立案については、チームでは行っているものの、不十分などところがある。

・支援終了後には職員間で打ち合わせを行い、情報の共有や振り返りを行っている。

C関係機関との連携

・学校との情報共有、連絡調整は適切に行っている。

・放課後児童クラブや児童館との交流、障害のない児童と活動する機会はない。

D保護者への説明責任・信頼関係

・子どもや保護者からの苦情については迅速かつ適切に対応している。

・個人情報には十分注意している。

E非常対応

・非常災害に備え、定期的な避難訓練は実施している。

保護者による評価

A環境面

・もう少し十分なスペースがあると良いと思う。

・収容されている子どもの人数がわからないのでわかりません。

・職員の所持されている免許をハッキリと教えて頂きたいです。

・療育に関連した知識や資格を持った職員がより多くいると安心します。

B児童への支援内容

・私では連れて行くのが困難な場所へも遠足で連れて行ってもらっている。

・活動支援プログラムが固定化しないよう工夫はされている。

C事業所からの情報発信

・日ごろからの子どもの状況は、送迎時や面談時にきちんと親へ伝えられている。

・HPは楽しく拝見しています。

D非常対応

・ライズさんでの避難訓練の様子を子どもから聞いています。

事業所内での分析

【共通点】

- ・ほとんどの保護者・スタッフの中で、事業所の広さが定員に対して適切であるとの認識がある。
- ・活動プログラムに関しては、スタッフ・保護者ともに固定化しないように工夫されていると認識している。
- ・避難訓練の様子は保護者の方にもしっかりと認識されている。

【相違点】

- ・緊急時対応マニュアルや防犯マニュアル、感染症マニュアルに関して、職員には周知されているものの保護者の中には存在を知らない方も数人いた。
- ・職員の配置についてはあまり把握していない保護者が多く、それよりも職員の所持資格等の専門性を気にしている方が何名か見受けられた。

分析・検討してみたて…

事業所の強み

- ・月毎・週毎にレクを変化させ、活動プログラムを固定化させないようにしている。
- ・学校や保護者との情報共有・連絡調整は送迎時や面談時等で適切に行われている。また、業務後の終礼にて、その日一日の様子や変化についての情報の共有や振り返りが適切に行われている。
- ・避難訓練の様子等も含め、HPを通して日々の活動の様子が把握できるようになっている。

事業所の改善点

- ・限られたスペースの中で支援に必要なものを配置しているため、子どもの人数が多くなってしまうとスペースに物足りなさを感じてしまう。
- ・事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされていない。
- ・活動支援プログラムの作成に当たり、チームワークが十分に発揮されていない。

事業所の改善への取り組み

- ・スペースの拡充は難しいため、現状今あるスペースを使って如何に広く使えるか、モノの必要性・配置等をもう一度スタッフ間で考え、吟味していく。
- ・日々の活動支援プログラムについて再度スタッフ間で話し合い、個々の利用者がそれぞれどのような支援をしていけば成長に繋がるかを考えた上で、より良いプログラムを組んでいけるようにする。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

- ・アンケートを通して見えてきた職員間の考えのズレや保護者の考えを下に、これからも試行錯誤を繰り返していきながら、今よりさらに良い職場を目指していきたいと感じた。

事業所名 ライズ児童デイサービス本牧

担当者 勝山 和江